



SAKAIの最強ローラ SV512T-E テレビ「ほこ×たて」でリベンジ！！

第90号
 発行所 酒井重工業株式会社
 住所 東京都港区芝大門 1-4-8
 電話 03-3434-3401
 FAX 03-3434-3419
 発行人 加藤 孝



2012年9月23日（日）19:00～SAKAIの最強ローラであるSV512T-E（10t土工用振動ローラ、タンピングドラム仕様）が、フジテレビ系列バラエティクイズ番組「ほこ×たて」3時間スペシャルで放映されました。

前回（同年1月15日放映）の対決では、SV900DV（19t 土工用振動ローラ、スムーズドラム仕様）が、安全ポールを率いたポストフレックス社と壮絶な戦いの末、見事散り花を咲かせ敗戦の将となってしまいました。

今回は、リベンジ戦とのことで、また負けるのではないかという不安が半分、今度こそ勝つぞという気合半分の心境で当日を迎えました。前回同様、大勢の応援団を目の前にして、興奮が抑えられません。対戦相手はあの有名なサムソナイトのスーツケース「コスモライト」。エンジン全開、振動MAX、徐々にコスモライトに近づき、「あっ、踏んだな」という感触が伝わります。その瞬間、サムソナイトの応援団から大声援が聞こえ、敗北の影が迫る思いで、車両から降りました。コスモライトの姿が見えた時、正直複雑な思いでした。なんと、完全に潰れているではないですか。対決結果は、「勝利！」となり、名誉挽回、応援団に胴上げをしてもらい至福の時を迎える事ができました。（対決者談）



歓喜の胴上げ

では、編集部からサカイニュースをご覧の皆様だけに、放映では流れなかった対決裏話を紹介します。前回放映後にリベンジ戦のお誘いが同じ番組制作会社からきました。対決番組のため、前回よりも優れた能力をもったローラが条件とのこと。機種選定に悩みましたが、“ロールにイボイボ”が沢山ついたタンピングローラでの参戦を決定しました。タンピングローラは、ドラム（ロール）についた突起で軟弱土壌に無数の窪みを作り、

表面積を増加させることで土壌内の水分を蒸発させ、締固めに適した含水比を得る働きがあります。また、一点集中の締固め能力にも優れています。よって中身が空洞で表面が硬い物質であれば勝てると思いましたが（但し、前回の安全ポールのように樹脂・ゴム系の材質で圧縮して破壊されない物質では困難かも・・・）。

肝心な会社代表は、前回同様、番組でもすっかり人気者になった事業推進部の後藤春樹氏。前回の負けた悔しさと日々悶々と過ごしている様子でした。対戦相手は今回も当日まで絶対に秘密。未知の対決相手に思いを巡らせながらも、撮影準備のスタートです。

ローラの準備が完了し、番組制作会社に一報を入れた後に撮影開始です。2日間でSV512T-Eの破砕能力等を撮影。これは、「パフォーマンスチェック」と呼ばれ、岩、コンクリートブロックおよびアスファルト道路を次々に破砕させていきました。また、振動による水槽内の波発生実験や軟弱土壌の締固め（本来の使い方）も撮影しました。



パフォーマンスチェック中

番組制作会社はやはりプロらしく、どんな些細な事も動画素材としてカメラに納め、常に良い動画が取れるように細心の注意を払いながら撮影しているようでした（ADさんは怒られっぱなしで少し可哀想・・・）。前回同様、放映されたのはほんのごく一部で、居酒屋での撮影も大幅カット。

さて、いよいよ対決当日。集まった応援団は総勢100名超。大型観光バス4台に分乗して、前回と同じ対決場所である採石場へ。ローラと後藤氏の応援のため、今回は更に気合いを入れ横断幕を2枚、幟(のぼり)を10本以上用意し、サカイのユニフォームも整え、対決場に乗り込みました。



いよいよ対決！！

行ってみると対決相手は、なんと、前回同様また女性！？女性にはからっきし弱い後藤氏、思わず「また女か」という言葉が出てしまいました。しかし、そんなジククスは振り払わなければなりません。

この女性は、サムソナイトジャパン、マーケティング部の唐島さん。英語が堪能でハイソサエティな感じです。唐島さんが持参したものは、絶対潰れないスーツケース「コスモライト」。とにかく軽くて丈夫なスーツケースで自動車が衝突しても元の形に戻ってしまうという強者です（放映では、油圧ショベルで押し潰して元に戻った映像も流れていました）。



踏みつぶされたケース

対決の結果は放映された通り、唐島さんの「戻りません！！」の宣言で、酒井重工業の勝利が確定しました。対決後は両者とも固い握手。後藤氏は対決をきっかけに「サムソナイトが好きになりました！」と宣言。普段とは違う清々しさが感じられました。番組的にはローラが負ける方が面白いのかもしれませんが、唐島さんと後藤氏のキャラ対決といった編集により面白く仕上がっていました。「サラリーマンは2度の負けはないですから」の名言も飛び出し、とにかくリベンジが果たせて良かった！



勝利宣言

今後の防衛戦にも期待したいところです。



フィリピン道路事情 ～ミンダナオ島の現状～



前回に引き続き、昨年末にロードスタビライザによる路盤安定処理の試験施工を実施した

ミンダナオ島（ラナオ・デル・ノルテ州カパタガン）を紹介します。

ミンダナオ島は、フィリピンでルソン島に次いで2番目に大きい島で、人口は2,000万人を数えます。この島の気候は熱帯で、昨年12月に季節外れの台風に見舞われ、多大な被害を受けたことは記憶に新しいところです。

また、日本人にとっては、ダバオ市（ミンダナオ島最大都市）とバナナが有名です。図1に示すラナオ・デル・ノルテ州は北ミンダナオ地方にあり、州都はタボッド町です。

この州には、22の自治体があり、それを構成するバラングイと呼ばれる最少単位の集落が468存在します。州人口は、84万人を数え、特別市としてイリガン市が州の北部にあります。我々は安全性を考慮しタボッド町にある州経営のホテルに宿泊しました。

ミンダナオ島には、イスラム教徒（ムスリム）が多く居住し、彼らはフィリピンからの分離独立を求めモロ民族解放戦線（MNLFN）を結成し、フィリピン国軍と1970年から内戦を行ってきました。しかし、1996年和平合意が成立し、住民投票を行った結果、4州によるムスリムミンダナオ自治区（ARMM）が成立しました。しかし、これに反対する過激派がモロイスラム解放戦線（MILM）を組織して、テロ活動を行い、たびたび国軍と衝突し、このことがミンダナオ島での治安を非常に悪くする結果となっています。一方、我々が滞在したラナオ・デル・ノルテ州は、キリスト教徒が多く比較的治安が良好とのことでありましたが、全く安全という訳ではなく、工事中は知事の計らいで軍人による警護が付きました。また、タボッド町の夜は、非常に暗く危険で、外出は車という状況でした。

ミンダナオ島の国道は、コンクリート舗装が大半で、平坦性が意外と良好なため、かなりの速度で走行できます。州道については、町中心部は幅員4～6m程度のコンクリート舗装（図2参照）で、少し町から離れると未舗装の砂利道となります。試験施工現場までは国道を走行しましたが、数ヶ所でコンクリート舗装の補修工事が行われていました（図3参照）。補修方法は既設のコンクリートを壊し、碎石路盤を構築してから人力でコンクリートを打設するもので、鉄網は使用していません。なお、国道の場合、施工は請負方式とのことでした。州道については、直轄方式で建設・維持管理を州独自で行っており、そのための州土木建設事務所を持ち、フィニッシャ、ダンプトラック、各種ローラおよび乳剤散布車などを所有していました。また、事務所から離れた場所に加熱アスファルトプラントと碎石製造プラントを所有していました。なお、アスファルトやアスファルト乳剤は、全てルソン島からドラム缶で運搬していました。今回は、試験施工について紹介いたします。



図1 ラナオ・デル・ノルテ州



図2 州道コンクリート舗装



図3 国道コンクリート舗装の補修

ある町この道 シリーズ⑩

碓氷峠（旧国道18号線）～孀恋パノラマライン～



旧国道18号線から見える鉄道橋

碓氷峠は有名なので皆さんご存知かと思います。群馬県安中市松井田町と長野県軽井沢町を結ぶ標高差500m（直線距離では10km）の急勾配な峠です。またここは、中央分水嶺の一つで、群馬県側に降った雨は太平洋側へ、長野県側に降った雨は日本海側へ流れて行きます。

東京方面から碓氷峠を越えて軽井沢に行くルートは、旧国道18号線、碓氷バイパス（現国道18号線）および上信越自動車道を使う3つがあります。中でも一番趣きがあるのは、カーブが多く道幅が狭い旧国道18号線です。木々に囲まれながらの峠道からは、かつてアプト式線路※が敷かれていたレンガ造りの鉄道橋が見られたり、夏は

渋滞に巻き込まれないで軽井沢駅前に出られるというメリットもあります。峠に入る前には定番の横川の「峠の釜めし」で腹ごしらえをお忘れなく！

その軽井沢駅前から白糸の滝、鬼押ハイウェイ方面に向かい途中左に折れていくと浅間山北側の山裾を走る孀恋（つまごい）パノラマライン南ルートにたどりつきます。ここは農道とは思えない素晴らしい道路で、北海道を思わせる広々とした高原と延々と広がるキャベツ畑を見ながらのドライブは開放感を味わえます。今回は行けませんでした。四阿山（あずまやさん）と草津白根の山裾を走る北ルートも同様に素晴らしいので、併せて行かれてみては如何でしょうか。近くには温泉が幾つもあり、旅の疲れを癒してくれますよ。



パノラマラインから望む浅間山とキャベツ畑

アプト式線路※：2本のレールの中央に歯型のレールを敷設し、機関車の歯車と噛み合わせることで推進力と制動力の補助とするもの。

What is this? ～変身玩具～

当社のタイヤローラ TZ701-1 とロードカッター ER552F のミニチュアが BANDAI 社（VooV シリーズ）から発売（定価 924 円）されています。

これらは、なんと一つのミニチュアが変身して2機種になってしまうという優れものなんです。昔から変身する玩具は日本の得意分野で超合金のロボットは特に人気があり、映画「トランスフォーマー」のアイデアの元になったのは有名な話です。この VooV（ブーブ）シリーズは建機以外にも自動車や電車などがあり、思いもよらないものに変身する姿には驚かされます。では実際に“へんし〜ん”させてみましょう。

